

## 特別の教科 道徳

### I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領(平成29年3月)に示された「特別の教科 道徳」の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

1 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長	
共通 観点	(1) 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成、「本県教育が目指す人間像」の育成に資する内容、構成となっているか。
	(2) ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う上での特長	
教科 独自 観点	(1) 生徒の発達の段階に即し、ねらいを達成するために適切に配慮されているか。
	(2) 生徒が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるよう適切に配慮されているか。
	(3) 指導方法を工夫できるよう言語活動や問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等について適切に配慮されているか。
	(4) 公正な視点から、生徒の発達の段階に即し、物事を多面的・多角的に考えることができるよう適切に配慮されているか。
	(5) 現代的な課題などにおいて、国際的な視野も含めて、広く題材の選択等を行っているか。
	(6) 家庭や地域社会と連携した活用ができるよう適切に配慮されているか。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ(ユニバーサルデザイン)等の観点からの表記・表現や体裁の特長	
共通 観点	(1) 文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。
	(2) 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3) レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

### II 選定資料利用上の留意点

- 1 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 2 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 3 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。



### Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

発行者		学 研	廣あかつき	日 科
1 教育基本法を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長 2 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を	(1) 教科の特質に及び、「教育の目標」「教育の達成」の育成に資する内容、構成人間の	・世界で活躍する日本人を多く取り上げ、生徒が関心をもつような教材を設定することで、自分に置きかえて考え、人生を切り拓いていく高い志を育むことができるよう配慮されている。	・いじめに関する教材を取り入れるとともに、共生や人権等の現代的な課題についても複数教材を配置することで、思いやりの心を育むことができるよう配慮されている。	・「生き方」をテーマに、先人や著名人の体験や夢を紹介した教材を配置することで、郷土や国家を担う責任を自覚することができるよう配慮されている。
	(2) ふるさと長崎の伝統・文化や歴史に関する題材が扱われている	・1年クローズアップ「日本各地の自然愛護の活動」で、本県が接する有明海の干潟を守る保護活動を紹介することで、本県への関心を高めることができるよう配慮されている。	・3年「風に立つライオン」で、本県出身の歌手さだまさしの楽曲を通して、本県ゆかりの医師の海外での活動を紹介することで、本県への関心を高めることができるよう配慮されている。	・1年「銅像が教えてくれたこと」で、本県ともかかわりがある、陸奥宗光の活動を紹介することで、本県の歴史についても理解を深めることができるよう配慮されている。

### Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

観点	発行者	東 書	教 出	光 村	日 文
<p>2 で学 習指 導要 領の 目標 や内 容等 を踏 まえて、 より よく 生き るた めの 基盤 とな る道 徳性 を養 う上</p>	<p>(1) さい生 れ徒の 達発 成達 の段 階に 適切 に配 慮ら るる かよ るき 生徒 が喜 ばい る間 深く と考 え配 慮を 与え ること がよ く生 きて いれ る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の冒頭に「話し合いの手引き」や「学習の流れ」を提示したり、「いじめ問題」と「生命尊重」を効果的に指導することができるよう、同一ユニット内に複数の教材を配置したりすることで、生徒の発達の段階に即して学習を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭の「道徳科での学びを深めるために」で、授業の流れを例示して学習のイメージをつかみやすくするとともに、毎時間の学びを記録して1年間の学びの見通しを分かりやすくすることで、生徒の発達の段階に即して学習を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年「道徳の授業を始めよう！」で、学習の意義と流れをつかむために、既習資料を活用した授業開きを位置付けたり、年間を三つの「シーズン」に区切り、それぞれに学びのテーマを設定したりすることで、生徒の発達の段階に即して学習を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の実態を踏まえたテーマを設定するとともに、重点項目である「いじめと向き合う」や「よりよい社会と私たち」を、繰り返し効果的に学べるように教材を配列することで、生徒の発達の段階に即して学習を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>
	<p>(2) るる かよ るき 生徒 が喜 ばい る間 深く と考 え配 慮を 与え ること がよ く生 きて いれ る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>田中正造、杉原千畝、野口聡一といった先人や著名人、黒田博樹、小平奈緒といったスポーツ選手などの、夢や目標達成のための苦悩や努力を取り上げることで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>杉原千畝、野村萬斎といった先人や著名人、長嶋茂雄、イチロー、竹下佳江といったスポーツ選手などの、夢や目標達成のための苦悩や努力を取り上げることで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北村麻子、吉田真美、菱田春草といった先人や著名人、二條実穂、大野将平といったスポーツ選手などの、夢や目標達成のための苦悩や努力を取り上げることで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>杉原千畝、山中伸弥、さかなクンといった先人や著名人、吉田沙保里、井上康生といったスポーツ選手などの、夢や目標達成のための苦悩や努力を取り上げることで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。</li> </ul>
	<p>(3) に験言指 配的語導 慮な道活 され学動 れ習的や た等行問 いて為工 るにつ夫 かにつ解 いて決可 るすず能 る適なよう 切体学</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決的な学習について、各学年テーマを設定し、教材を基にした話し合いを設定することで、道徳的価値の理解を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>各学年、体験的な学習について、「ACTION」として、テーマを設け、役割演技を示すことで、道徳的価値の理解を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材ごとに、学習の視点、学びの道しるべの活用、振り返り、まとめを設定することで、学習の流れがつかみやすくなるよう配慮されている。</li> <li>「学びの道しるべ」で、教材内容に沿った発問を三つ掲載することで、学級の実態に応じた学習展開が可能になるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の役割演技を取り入れた活動を設定することで、道徳的価値の理解を深めるとともに、生徒の学びを活性化することができるよう配慮されている。</li> <li>いじめ問題や学校生活で起こる身近な問題について具体的な場面を取り上げ、解決策を考えさせることで、道徳的価値の理解を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習の進め方」のページを設けることで、生徒が問題について考え、議論を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>役割演技の内容や、見るときの視点等を示すことで、体験を通して何を学ぶのか、道徳的価値の理解を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>

### Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

観点	発行者	学 研	廣あかつき	日 科
<p>2 の 学 習 指 導 要 領 の 目 標 や 内 容 等 を 踏 ま え て、 よ り よ く 生 き る た め の 基 盤 と な る 道 徳 性 を 養 う 上 で</p>	<p>(1) さい生徒の達成しているか。そのため段階に即し、適切に配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の学びによる成長を生徒が自ら気付くことができるよう、巻頭に自分を見つめるページを、巻末に学期末ごとに学びを振り返るページを配置するとともに、多数の「特設ページ」を設定することで、生徒の発達の段階に即して学習を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材ごとに「道徳ノート」を柔軟に活用し、深まりのある学習ができるようにするとともに、ノートの巻末にある「心のしおり」では、学習内容ごとに振り返りができるようにすることで、生徒の発達の段階に即して学習を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四つの視点ごとの教材配列で指導の時期や順序を工夫しやすくするとともに、登場人物やストーリーに3年間の連続性をもたせた教材を配置することで、生徒の発達の段階に即して学習を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>
	<p>(2) るき生徒が喜びや意欲をもち、積極的に取り組むことができるよう配慮されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊能忠敬、山中伸弥といった先人や著名人、イチロー、長谷部誠、高梨沙羅といったスポーツ選手などの、夢や目標達成のための苦悩や努力を取り上げることで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マザー・テレサ、向田邦子といった先人や著名人、王貞治、三浦知良、松井秀喜といったスポーツ選手などの、夢や目標達成のための苦悩や努力を取り上げることで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉田松陰、山中伸弥といった先人や著名人、国枝慎吾、長嶋茂雄、松井秀喜といったスポーツ選手などの、夢や目標達成のための苦悩や努力を取り上げることで、人間としてよりよく生きることの喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮されている。</li> </ul>
	<p>(3) に学習指導要領や道徳活動や学習的等を行うための課題を解決するよう適切</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材末の「深めよう」において、活動の具体例を示すことで、学級の実態に応じた授業展開を工夫することができるよう配慮されている。</li> <li>「クローズアップ プラス」を設け、いじめ防止や生命尊重に関する具体的場面を考えさせることで、生徒の実生活につなげることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材ごとの「考える、話し合う」において、複数の発問例を設定することで、学級の実態に応じて発問を工夫することができるよう配慮されている。</li> <li>教材ごとに関連する内容を道徳ノートに掲載することで、生徒の理解を深めたり、指導方法を工夫したりすることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年「二つの足跡」では、「議論が沸き起こるワークシート」を付けることで、指導方法を工夫することができるよう配慮されている。</li> <li>各学年ごとに、余韻を残す終わり方の教材を複数用意することで、物語の展開を生徒に考えさせることができるよう配慮されている。</li> </ul>

### Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

観点	発行者	東 書	教 出	光 村	日 文
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う上での特長</p>	<p>(4) 公正な視点から、生徒の発達段階に即して、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</p>	<p>・新聞や漫画を基にした教材など、様々な視点から気持ちを考え、意見交換をすることができる教材を取り上げるとともに、各学年に「PLUS」を設定することで、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</p>	<p>・シリーズ化された教材を3年間を通して活用し、生徒の成長と学校行事に関連させた教材を配置するとともに、教材末の「学びの道しるべ」で複数の視点を設けることで、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</p>	<p>・「いじめ」や「キャリア教育」等をテーマとしたユニット教材を全学年において設けるとともに、教材末の「プラットフォーム」で他教科等との関連を示すことで、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</p>	
	<p>(5) 現代的な課題の視野などにおいて、国際的な課題について、生徒の発達段階に即した身近な事例を取り扱うことで、問題解決に向けた議論ができるよう題材を選択している。</p>	<p>・生命尊重やいじめ問題を基本とし、情報モラル、持続可能な社会の形成、食育等の現代的な課題についても、生徒の発達段階に即して配置することで、多様な課題に触れることができるよう幅広く題材を選択している。</p>	<p>・生命尊重、いじめ問題、情報モラル、社会参画、国際理解等、現代社会の課題を系統的に配置したり、本編と関連したコラム等を設けたりすることで、考えを深めることができるよう工夫している。</p>	<p>・生命尊重に重点を置きながら、現代的な課題である情報モラル、いじめ問題、持続可能な社会、安全等をテーマごとに配列して提示することで、幅広い内容を系統的に考えることができるよう工夫している。</p>	
	<p>(6) 家庭や地域社会と連携し、適切な活用ができるよう配慮されている。</p>	<p>・社会参画や家族愛、郷土愛など、地域社会や家族とのかかわりを考える教材を複数取り入れることで、自分自身が、家族や地域社会を構成する一員であるということへの自覚を深めることができるよう配慮されている。</p>	<p>・巻末に、郷土に関する題材や各都道府県ゆかりの人物を取り上げたり、「やってみよう」のページで、地域社会を意識した体験的な学習を扱ったりすることで、地域社会とのつながり意識することができるよう配慮されている。</p>	<p>・コラム「広げよう」で社会参画を取り扱ったり、「深めたいむ」で地域社会とのかかわりについて振り返る場面を設けたりすることで、学習内容を家庭や地域社会で生かすことができるよう配慮されている。</p>	

### Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

観点	発行者	学 研	廣あかつき	日 科
<p>2 を学 養習 指 導上 要 領 の 特 長</p> <p>を学 習指 導要 領の 特長</p>	<p>(4) れが面達公 てで的の正 いき・段な いる多階視 る多角に点 かよ角に即 う的から 適にし、 切考 にえ物生 配る事徒 慮ことの さと多発</p>	<p>・「いじめの防止」「情報モラル」「SDGs」等のテーマについて、各学年に複数の教材を配列するとともに、教材末の「深めよう」で生徒への問いの工夫が施されており、物事を多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</p>	<p>・「thinking」と関連した教材を各学年に配列するとともに、「生命の尊重」「家族愛」「郷土愛」等の内容項目において、生徒の心に響く教材を学年ごとに配列することで、多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</p>	<p>・各学年に「いじめをなくす・生命を尊ぶ」教材や「情報モラルを守る態度を身につける」教材、「生き方を探す」教材等を設定することで、生徒が発達段階に応じて多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</p>
	<p>(5) 行てて現 つ、代 て広国的 いく際な か題的課 材な題 の視な 選野 択も 等にお を含 めい</p>	<p>・生命の尊厳、いじめ問題を基本に、現代的な課題である情報モラル、国際理解等の内容をマークで表したり、本編教材と関連が深い特設ページを設けたりすることで、自主的に考えることができるよう工夫している。</p>	<p>・生命尊重を基本に、いじめ防止や情報モラル等の身近な課題を扱う教材を取り上げたり、巻末に持続可能な社会の話題を配置したりするなど、日常生活とつなげて考えることができるよう幅広く題材を選択している。</p>	<p>・命の教育を重点テーマとし、情報モラルやいじめ防止等、現代的な課題を複数取り上げたり、世界で活躍する日本人に注目したりするなど、日常生活と関連性をもって学習できるよう題材を幅広く選択している。</p>
	<p>(6) てよ携家 いう庭 る適たや か切活地 に配用が域 慮が社 さ会 されと 連</p>	<p>・教材文の後の「クローズアップ」で家族に気持ちを伝えることを促したり、社会参画等に関連する情報を掲載したりすることで、家庭や地域とのつながりについて考えることができるよう配慮されている。</p>	<p>・家族とのかかわりやできごと、地域の人の交流や行事を題材としたり、中学生の作文や新聞等を掲載するコラムを設けたりすることで、家庭や地域との交流を自分のこととして考えることができるよう配慮されている。</p>	<p>・家庭や地域社会について共感しやすい題材を用いた教材を複数配置したり、教材文の後の補助資料で、自分の生活と関連付けたりすることで、家庭や地域とのつながりを意識することができるよう配慮されている。</p>

### Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

発行者		東 書	教 出	光 村	日 文
観点					
3 長 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特	(1) 適文章は、分かりやすくなるが、質・量ともに	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が上がるにつれて文章量を増やすとともに、中学生にも分かりやすい語句や表現を用い、生徒に馴染みの薄い語句には脚注を付けることで、生徒が内容を理解することができるよう配慮されている。</li> <li>・教材の最後に、補助的資料や書き込み式ワークシートを付けていることで、生徒が内容を理解した上で考えを深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が上がるにつれて文章量を増やすとともに、字間や行間、行数を工夫し、長い教材文は上下二段組とすることで、生徒が内容を理解することができるよう配慮されている。</li> <li>・教材名の下部に簡潔な問いを示すことで、生徒が導入時に主題や内容を理解した上で考えを深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が上がるにつれて文章量を増やすとともに、補助的資料や学習内容を広げるコラムなどは横書にして、教材本文との区別を明確にすることで、生徒が内容を理解することができるよう配慮されている。</li> <li>・教材名の上部に内容項目を明記し、補助的資料を多用することで、生徒が内容を理解することができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が上がるにつれて文章量を増やすとともに、中学生を題材とした教材を多く掲載することで、生徒が自身の生活を振り返りながら考えることができるよう配慮されている。</li> <li>・補助的資料や学習内容を広げる関連コラム、語句の脚注を多用することで、生徒が内容を理解することができるよう配慮されている。</li> </ul>
	(2) 学習意欲を高めるとともに、関係や学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材名下部に生徒に馴染みのある漫画の1コマを取り入れたり、図表データを提示したりするとともに、教材全部が漫画のものを掲載することで、生徒の興味・関心を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見開きいっぱいに写真を掲載し、挿絵や漫画教材、図表を多用するとともに、巻末に47都道府県ゆかりの著名人の言葉を掲載することで、生徒が学習内容を身近に感じ学習意欲を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表情から心情が読み取れるような挿絵や写真を掲載するとともに、会話文のみで構成された教材を掲載したり、生徒自身が検索できる補助資料を二次元コードで提示したりすることで、生徒の興味・関心を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材名下部に写真やイラストを掲載し、教材文の冒頭に見開きいっぱいの写真や漫画教材、挿絵を多用するとともに、話し合い活動など学習の進め方を写真で提示することで、生徒の学習意欲や学習効果を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>
	(3) レイアウトや色彩、文字の	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A B判を採用し、各教材にメモ欄を設け、考えや振り返りを書き留められるようにするとともに、生命尊重等のユニットでは、始めにテーマや登場人物を紹介することで、学習の見通しをもつことができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B 5判を採用し、教材文の行下には番号や点を表記することで効率的に学習活動を進めることができるようにするとともに、行間やページの余白を確保することで、教材文が読みやすくなるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B 5判を採用し、文字のフォントや大きさ、行間を工夫して余白にゆとりをもたせるとともに、挿絵や写真、図表などの多様な資料を大きく掲載することで、生徒の学習意欲を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B 5判を採用し、大きめの挿絵や写真を掲載しながらも余白を確保することで、読みやすくなるよう配慮するとともに、表題の下には主な登場人物を掲載することで、生徒が内容を把握しやすくなるよう配慮されている。</li> </ul>

### Ⅲ 具体項目

特別の教科 道徳

観点	発行者	学 研	廣あかつき	日 科
<p>3 長 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特</p>	<p>(1) 適文章は、分かりやすかついていく、質・量ともに</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な文章量で、豊富な脚注や学習内容を深めるための補助的資料を活用することで、生徒が内容を理解することができるよう配慮されている。</li> <li>教材名の下部に主題や課題解決につながる短い文章を添えることで、生徒が主体的に考えることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な文章量で、語句には脚注を付けるとともに、長い教材文は上下二段組にすることで、生徒が内容を理解することができるよう配慮されている。</li> <li>各教材の終わりに学習内容に関連する著名人の名言を掲載したり、「道徳ノート」に補助的資料を豊富に掲載したりすることで、生徒が考えを広げることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な文章量で、オリジナル教材を多数掲載するなど学習内容を充実させることで、生徒の考えを広げることができるよう配慮されている。</li> <li>ページの左上に教材名を明記し、補助的資料や関連コラムを多用することで、生徒が内容を理解することができるよう配慮されている。</li> </ul>
	<p>(2) 学習効果に十分配慮されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真やイラスト、グラフなどの図表を用いた補助資料の提示や、漫画やシナリオ、紙芝居の教材を掲載し、チェックリストを付けることで、生徒自身の興味・関心を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の最後に写真付きで人物を紹介し、教材の裏付けとして関連した新聞記事や手書き資料を掲載することで、生徒の興味・関心を引き出し、学習効果を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフなどの図表やチェックリストを効果的に配置し、イラストと吹き出し、新聞の投稿記事、テーマの事例のみで構成されている教材を掲載することで、生徒の興味・関心を高めることができるよう配慮されている。</li> </ul>
	<p>(3) レイアウトや色紙の活用、文字の適</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A B判を採用し、各教材にメモ欄を設け、考えや振り返りを書き留められるようにするとともに、表題の下には本文抜粋の言葉を、ページ下には登場人物を紹介することで、学習の見通しをもつことができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A B判を採用し、挿絵の色合いや余白を工夫して教材文が目向きやすくするとともに、教材ごとに道徳ノートの対応ページを掲載することで、学習活動が円滑に展開され、価値理解を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>B 5判を採用し、表題を本文と統一したフォントで大きく表記し、見やすくするとともに、優しい色合いの挿絵を効果的に配置することで、本文の内容が目向きやすくなるよう配慮されている。</li> </ul>